

エンパワーするNGO



特集：地域交流スペースをめざして



ちいきにひろがれ ふくしのわ

わいわい通信

Vol.25

2016.3

神戸YWCA 地域福祉部ニュースレター



も く じ

活動紹介・ボランティア募集中！・・・・・・・・・・・・・・ 3

特集 地域交流スペースをめざして・・・・・・・・・・・・・・ 4

グループ近況報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

被災者支援プロジェクトからの報告・・・・・・・・・・・・・・ 16

ありがとうございました！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18



地域福祉部って ...

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、神戸YWCAでは9つのボランティアグループが生まれました。神戸YWCA地域福祉部は、それらのグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～ひとりひとりが存在そのものを大切にされる地域社会作り～を実現するために活動しています。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力しあうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティア同士の交流、内外へのそれぞれの活動の情報の発信なども行なっていきます。

ボランティア募集中！

一緒に活動してくださる方を大募集しています !!!

グループ名	活動紹介・ひとこと	活動日時
高齢者のサポート		
わいわいランチ	一人暮らしの高齢者世帯に手作りのお弁当をお届けしています。盛りつけや配達など得意なところで力を発揮してください。	月～金曜 9:30 ～ 13:30
わいわい亭	(食事会) 高齢者対象の会食サービス。食事の準備や話し相手をして、皆さんと過ごしてください。	第 2・4 水曜 11:00 ～ 13:30
	(歌の会) すてきなピアノ伴奏で童謡や唱歌、懐かしい曲を歌い心身ともにリフレッシュ！ ご一緒にしませんか。	第 3 木曜 14:00 ～ 15:00
わいわいデイルーム	食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。	毎週火曜 10:00 ～ 15:00
弓の木 歌の集い	灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者による歌の集い。	第 3 水曜 14:00 ～ 16:00
子どもと家族のサポート		
わいわい科学クラブ	小学生対象。身近なテーマのおもしろ実験やものづくりを楽しむ子どもたちの笑顔が励みです。若者、保護者、熟年者みんなで企画、運営しています。	毎月 1 回土曜 9:30 ～ 15:30 本館と分室
ちゃいやあらんど	子どもと家族のためのフリースペース。ハロウィンなどの季節イベント、つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひ参加してください。	第 1・3 水曜 11:00 ～ 15:00
野宿している人の支援		
夜回り準備会	野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話を伺っています。参加してみませんか？	第 2・4 土曜 18:00 ～ 22:00
当事者と仲間たちのスペース		
カフェもぐもぐ	若年性認知症の人とその仲間たちが集い、学び、仕事づくりをめざしています。ぜひご参加ください。	第 4 木曜 13:00 ～ 15:00
地域交流スペース		
木曜カフェ	地域の人たちが気軽に立ち寄ったり、つながったりできるスペースを一緒につくっていきませんか。主にオープンスペースでミニショップやカフェを開いています。	毎週木曜 13:00 ～ 16:00

特集 地域交流スペースをめざして

今、分室は大きく変わろうとしています。

これまでは、地域福祉グループの活動拠点として、多くのボランティアとデイルームやわいわい亭などの利用者さんが出入りしていました。これからは、地域の人が気軽に立ち寄ったり、座り込んでおしゃべりしたり、つながる居場所をつくろうと取り組んでいます。

始まりはガレージから。

分室で地域活動を始めて10余年。それぞれのプログラム担当者は日々の活動に努め、それなりに充実感を感じてはきた。しかし、この分室を利用してもらえる人たちがもっと他にもおられるのではないか、分室をもっと開かれた場所にできないかという思いは常にあった。今まで私たちが会うことのなかった方々も気軽に立寄り、ホッとできる空間で交流が進められたらいいなあということで、まさに外に開かれた空間であるガレージの再生・活用に思いが至った。



ガレージ再生お披露目会。道頓堀リバーバンドによるブルーグラス演奏。(2015. 3. 7)

そして、2015年3月、ガレージは専門家の助言・お手伝いをいただきつつ、ボランティアの手作業で明るく素敵に生まれ変わった。木曜カフェやショップが始まったが、ガレージ利用アイデアは、ピクチャーレールをつけて作品展ができないか、簡単な図書館活動ができないかなどなど、今も思いめぐらし中である。(川辺 比呂子)



明るいバンドの皆さんの演奏とお話で雰囲気も最高に。





ちやいやあらんど秋まつり。
オープンスペースは子供服や
小物、寄せ植えなどの販売
ショップに。(2015. 11. 29)



やどかりマルシェは「いなカフェ」移動
販売所。2015年9月開始。毎週火曜日9:30
～10:30に野菜や果物等が並べられる。
ご近所さん、デイルームの利用者やボラ
ンティア、幼稚園送りの若いママたちで
にぎわう。



ちやいやあらんど秋まつり。待合や食堂
スペースは子どもたち向けのちやいや手
づくり遊び場に。輪投げや段ボールハウ
スもありました。(2015. 11. 29)



小学生対象の科学クラブ。スライムをつくって、
あそびました。(2015. 8. 28)



カフェもぐもぐ。今年の夢や抱負を書こう。色紙
に一人ひとりが書きました。(2016. 1. 28)



「木曜カフェ」って何？

分室の入口は、奥まっついていて分かりにくい。ガラス扉は重厚で立派だが、中で何をしているのだろうと興味を持って、なかなか入りにくい造りになっているのではないか。「誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所づくりを進める」には、分室の中でおこなわれる活動に参加したり、利用したりする、入りやすい工夫が必要ではないか。そこで、玄関横の駐車スペースを「分室に入るきっかけ」の場としよう、となった。

椅子と机を置く。座ってもらうだけでいいけど、コーヒーや紅茶が飲めるといいかな、何か売っていると立ち寄りやすいかな。「木曜カフェ」と名付けて、短時間だが分室に入ってくる人や立ち寄る人を待つことにした。

2014年10月末から始めた。当初は人通りの少なさに驚く。身内の人が活動帰りにコーヒーを飲んでくれる。連携団体のショップも身内が主。そのうち「むつみ会」のお菓子には2～3人の固定客ができる。2015年2月。チ

ラシが宅配されると、買い物に来る人も。チラシに付けたコーヒー無料券持参の人がちらほら来てくれるようになった。

第3木曜の「歌の会」やグループの話し合い等の際にコーヒー注文をしてもらった。バザー用品や寄贈衣料品を販売した時は、10人を超える人が買い物に立ち寄った。

2015年4月末から子どもたち向けの工作を6回企画実施。スクールバスから降りてくる兄妹2人がよく立ち寄ってくれた。

朝から机とイスを置いてみたが、立ち寄る人はいない。小物を置いたが、「猫ピンチ」のみよく売れた。

9月からWAM事業助成となり、連携団体ショップは月2回となって再開。

なかなか客人が来ない「木曜カフェ」のコンセプトを見失う時期が続いた。10月末、木曜カフェのコーディネーターとなったEさんが棚の配置など斬新な提案をし、袋物、小物、バザー後売り品など並べる。絵本を並べて、見てもらえるようにする。





11月中旬にチラシ第2弾が撒かれる。二組3人がコーヒーを飲みに来てくださった。続いて、「コーヒーが飲めるところね、」とやって来た女性は週続けて来て買い物もされた。ランチの利用者が立ち寄ってコーヒーを飲み買い物もされた。ちゃいやママ2人は、むつみ会のお菓子が気に入り「ちゃいやまつり」に買い求めてから「木曜カフェ」でお茶するようになっている等、立ち寄る人が増えてきた。

「求める会」の有機野菜や無添加調味料などは種類や個数を増やすなど工夫をされて、売り上げが増えている。「むつみ会」のお菓子は毎週取り寄せて、月2回は「むつみ会」が販売しており、新たな固定客もでき始めている。「えんぴつの家」のパンは、美味しいと必ず買ってくださる方ができたので、毎週取り寄せるようにした。

「地域の人が寄れる居場所づくり」の一助となるよう、工夫を積み重ねたい。

この場所を「元駐車場」とは言いたくなくて、「地域交流スペース」と言ってみたものの、分室ボランティアの人



たちにも、認知されずにきた。

しかし、「木曜カフェ」を積み重ねていく中で、分室全体が「地域交流スペース」なのだ、と実感している。雨の強い日や寒い日、むし暑い日等に、室内「待合スペース」に机を置き、「カフェ」としているからだけではない。「わいわい亭」、「ちゃいやあらんど」、「デイルーム」、「カフェもぐもぐ」の活動で、高齢者、乳幼児と母親、若年性認知症の人と仲間たち、それを支えるボランティアが、集い、共に話し合ったり、もの作りやゲーム、歌、演奏などの活動をおこなったりするからである。そこが「地域交流スペース」の機能を発揮している。

(井上 みち子)



若年性認知症の人と仲間たちの「カフェもぐもぐ」

「カフェもぐもぐ」は、若年性認知症当事者である佐治雅子さん（神戸YWCA会員）の「悩みを共有できる人たちに会い、集う場がほしい」という声から地域福祉部を母体にスタートした。

佐治さんはこれまで神戸YWCAで様々な活動においてリーダーシップを発揮してこられた人であり、私たちはこの度彼女を通して若年性認知症について知り、考える時を与えられた。

50歳代の彼女は、当事者としての想いを「生活支援員として働いていたが2014年に若年性認知症と診断され仕事を辞めざるをえなかった。その間仕事や生活における不安があったが、受診からこれまで多くの友人が関わってくれた。

2015年2月、兵庫県社会福祉協議会を通して、当事者と厚生労働省との意見交換会に出席、当事者の想いを伝え、いろいろな人に出会って話し合う機会があったことはうれしかったし、自身の症状について話すことができ、心強かった。



今後の仕事づくりについての話し合い。
(2016.2.25)

また、若年性認知症の参加者との交流では、思いのほかみんなが元気で前向きに生活していることを知って、認知症に対するイメージが変わった。仕事がなく、行くところがないのは心に張り合いがない。また経済的なことも含めて将来への不安が大きい。家でテレビばかり見ている自分が嫌になる。仲間と話をしていると心に張り合いがあり、役割り感が持てる。また医療、行政サービス、生活支援などに対する情報がほしい。」と話された

高齢者の認知症については介護保険が導入され、社会においてもいろいろな取り組みが行われているが、若年性認知症についての医療や介護、社会サー

* 若年性認知症について *

「認知症は、85歳以上では3人に1人がかかる病気といわれ、高齢社会では当たり前の病気になりつつあります。しかし認知症は高齢者だけの病気ではありません。若年性認知症とは、65歳未満の世代に発症した認知症のことであり、働き盛りや家庭で大きな役割を担う年代の人に発症し、社会生活・家庭生活への影響が大きいことから、高齢者の認知症とは違った様々な支援が必要です。」

(神戸市認知症サポーター養成講座テキストより)

ビスの現場においての取り組みは始まったばかり。私たちは、「認知症になっても生きがいをもって、安心して、楽しく豊かに過ごしたい」という佐治さんの願いを共有したいと思い、7月から2回の学びと話し合いの時を持った。

また、兵庫県社会福祉協議会ひょうご若年性認知症生活支援センターや神戸市社会福祉協議会こうべ認知症生活相談センサポーター等の担当者の支援と協力を、すでに活動の先輩である若年性認知症の家族の会や様々なチームの取り組みを学ぶ機会もいただいた。

2015年9月「カフェもぐもぐ」は神戸YWCAの多くの人々の協力を得て、分室において活動を始めた。現在は毎月第4木曜日の午後1時から3時まで分室で活動をしている。

1月には啓発と仲間を増やしたいと認知症サポーターキャラバンメイトを講師に「認知症サポーター養成講座」を開催した。今はまだまだ手探りの段階だが、“仲間作りをしたい、仕事に対する不安、伝えたいことを語りたい、情報がほしい”を考える場として、当事者の想いを大切にしながら、“本人や家族、仲間たちがほっとしてつながる場”“若年性認知症の人が地域の中で生きがいをもって暮らし続けていけるように、出会い、集い、学び、働くことができる場”を、みんなで作っていききたいと願っている。

将来的には、それぞれのできることを生かした活動も創っていききたい。ま



認知症サポーター養成講座。14人が集まり学んだ。(2016.1.14)

た、個別相談があれば、専門職につながることもできる。若年性認知症についての勉強会や啓発活動もしていきたいと考えている。

分室全体が“病気である人も、ない人も、若い人も高齢者も世代を超えた人々がほっとできる場所”であつたらいいなと想像を膨らませている。

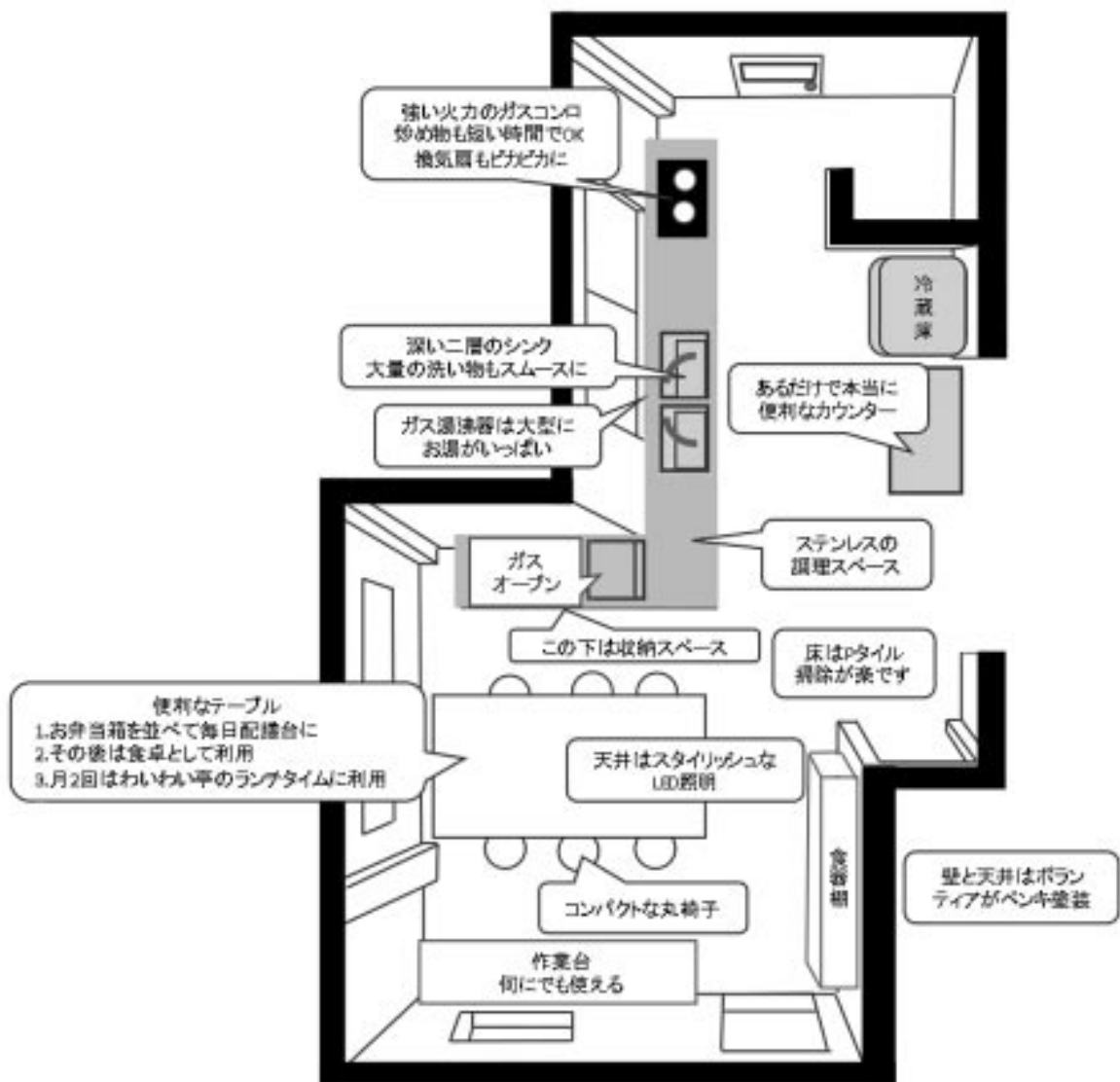
(宮田 泰子)

***神戸YWCA「カフェもぐもぐ」は高齢者起業支援事業（兵庫県）の助成金を受けています。**

**☆若年性認知症の方の生きがい
仕事づくり事業**

- ・若年性認知症の人が、集い、生きがいをもって働くことのできる場をつくる
- ・「カフェ」での食事提供、手づくりお弁当やお総菜など持ち帰り食品の提供など、地域の人に向けた新たなサービスを実施するためのキッチン改修

みんなうれしい新キッチン



ここから新しい活動が生まれる。

近況報告

わいわい亭

三浦 啓子

わいわい亭の食事会は、発足から15年。参加が少なく不安な時期もあったが、この1～2年は徐々に利用者が増えている。昨年分室にカフェがオープンし、近隣の人が気軽に立ち寄れるようになり、わいわい亭への参加に繋がった。新年1回目の例会は、13人の参加で満席となり、うれしい悲鳴をあげた。

最近、新しい利用者のNさんが一番乗りだ。「早過ぎるかしら？」とはにかみながらいつも部屋に入って来られる。わいわい亭の暖簾が掛かっていなかったときは、寒い中ドアの外で待っていてくださった。

いろんな事情を抱えて、家族の後押しでわいわい亭へやって来られるケースが多くなった。Nさんもその一人だ。初回は「すぐ帰りますから・・・」と頑なだった。しかし、「新人」の時はことばかずが少なく控え目にしていた方が、わいわい亭の仲間と食事をし、話すうちに、心を開いてはつらつと元気になってゆく。利用者さんの変化を感じたときは、本当に感激だ。Nさんも今は休みなく積極的に参加し、プログラムを楽しんでおられる。

残念ながら、ボランティアの新しい仲間は得られていない。毎回ぎりぎり

の人数で、参加者を迎えるところから、お見送りするまでの仕事を分担し、奮闘している。月2回の昼食会だが、利用者さんの生活のリズム作りに役立てればと思う。

歌の会は、2013年に食事会から枝分かれした。今はいろんなグループからメンバーが集まり、橋本静子さんのピアノ伴奏で歌っている。歌で若い時代に戻ったり、もっと昔の生活を想像したり、内容はなかなか奥が深い。歌うことの好きな人は、ぜひ第3木曜日の午後に分室を一度のぞいてみてください。



わいわいデイルーム

川上 和恵

2015年のデイルームはいつものメンバーで楽しく賑やかに皆さま過ごされました。

ただ後半は体調不良の方やご家族の介護の方など、ずっと参加されていたメンバーが抜け、少しさみしい事もありました。しかし、男性のボランティアさんも増え、また違った楽しい雰囲気です。少人数ながらもアットホームで笑い声いっぱいの時間を持つ事が出来ました。

私事ですが、実家の両親の介護もあり、2015年末でデイルーム担当を辞めさせて頂きました。10年近く関わらせて頂いて、たくさんの人生の先輩方との出会い、多くのものを学ばせて頂きました。一緒に笑い、一緒におしゃべりし、本当にステキな楽しい時間を過ごさせて頂き感謝しています。今までを振り返りデイルームに来て下さったあの方、あの方と・・・たくさんの思い出がよみがえります。大切な思い出です。

そしていつも助けて頂いたボランティアの皆さまにも本当に感謝、感謝です。一人では到底出来ない事でした。私も可能な日は恩返しでボランティアとして参加させてもらおうと思っています。

今後もずっとデイルームがメンバーの皆さまにとって安らぎの空間でありますよう、続いていってほしいと願っています。有り難うございました。



クリスマスサンタのお菓子入れを折る。

わいわいランチ

山本 のり子

わいわいランチのボランティアをするようになり、2年弱になります。

水曜日のお弁当の盛り付けと宅配を担当しています。配っている弁当の内容がすべて手作りで、家庭の味がして、市販のお弁当と比べ、飽きのこない弁当でいいなと思いました。今は亡き母が、家事ができなくなった時、宅配のお弁当を探したのですが、十何年前の田舎では見つかりませんでした。お弁当を配りながら、あの困った当時を思い出します。今、母と同様の方々に少しでもお役に立てていると思うと嬉しくなります。

この活動に参加を続ける事が出来るのは、何よりもボランティアの皆様のおかげです。



たたかさです。同年代の方が多く、宅配を終え、ボランティアのみなさんとの昼食時間に、いろんな話に花がさき、いつも笑顔になります。大笑いすることもしばしばです。青春時代の話、趣味の話、料理の話など話題はつきません。いつも楽しく参加させていただいています。



弓の木歌の集い

橋本 静子

震災から21年、「弓の木歌の集い」が始まって17年目を迎える。

そもそも「この集い」は震災後、灘区寿公園に建てられた仮設住宅へ、YWCAが届けていた配食がきっかけで始まった。震災で傷んだ建物の修復が終り、市営住宅に戻られた後、その市住の「高齢者の集い」から、引きこもりを防ぎ、親睦をはかる目的で「歌の集い」を持ちたいとお申出があった。1999年である。震災の傷もまだ癒えていない時にいち早くこういう催しを思いつかれ、それをYWCAに持って来られた事には、仮設でのYWCAのボランティア活動とその印象が大きく影響していると思う。

17年の間には多くのメンバーやそのお連れ合いをお見送りし、ホームに入ら

れた方もある。しかし、新しいメンバーも次々に与えられ、同じ形態、ほぼ同数（8人）の参加者と共に和気あいのの中に続いている。ボランティアから生まれた集い、ボランティアだから続く交わり、感謝である。



東京の吉田さんから送られてきたリンゴの箱を開けました。いつもありがとうございます。

夜回り準備会

森脇 梓

夜回り準備会は、毎月第2・第4土曜に灘区・東灘区で夜回り活動、毎週木曜に病院訪問を行っています。訪問先、参加者ともに年々減少傾向にあり、この1年の間にも訪問先が減りました。野宿をされている方の数自体は減っていますが、ネットカフェやシェルターなどで不安定な生活を余儀なくされている人は相当数いると考えられます。このような、見えにくい「ホームレス状態」にある方たちにどうアプローチしていくか、どのような支援ができるかが今後の課題です。

活動を通して、野宿をされている方を一括りにして考えてはいけなと気づかされました。それぞれ境遇も性格も異なり、求めておられることも異な

ります。こちらの考えを押し付けたり、無理に話を聞き出そうとすれば、信頼関係が一気に損なわれます。そのような対応は、誰だって不快に感じるでしょう。相手が話をしてくだされば耳を傾け、望まれていることを汲み取り、一人一人を尊重して支援することの大切さを感じています。



恒例「年末年始の炊き出し」今回は12月29日が「夜回り」の担当日。
チキンカレー作り。

ちやいやあらんど

宮田 泰子

「おはようございます」今日も子どもとお母さんの声が分室に響く。たいていはお母さんより子どもたちが先に走りこんできて、まずはおもちゃの棚の前で今日の遊びの品定めから1日が始まる。「ちやいやあらんど」は月2回の水曜日、11時頃から未就園児とお母さんが、三々五々集まって自由に遊んで、ランチを食べて、お茶を飲んで、思い切りおしゃべりして、時々「作ろう会」と称しておやつやお母さんたちの興味

のあるものを教えあって楽しんでいる。午後からはその兄弟姉妹で幼稚園帰り子どもたちも合流し、子供たちの遊びも、ママたちの会話もますますにぎやかに盛り上がっている。

春休みのゴスペルコンサート、10月の親子で歩くハロウィンのお菓子狩り、ガレージでの夏のプール遊び、地域の人たちも巻き込んだカフェやバザーと子どもたちの遊び場の秋祭り、クリスマスの美味しいケーキ作りなど、季節ごとに親子で楽しみながら、地域との交流ができたことをよろこびたい。

今年の特徴は、子育て真っ最中の参加メンバーが中心になって、役割分担しながら自主的にプログラムを企画、運営して楽しむことができたこと。

また今年は乳児など低年齢の子どもたちが多かったため、「作ろう会」などの作業や学びの機会などが少なかったが、次年度もみんなで話し合いながらいろいろなことに取り組んでいきたい。

社会の子育て支援の状況も随分変わってきたし、育メンや育休パパなど新しい言葉が定着する時代になったが、それでも子育ては楽しい時ばかりではない。インターネットの普及もあり情報は山のようにあるけれど、一緒に悩んだり、笑ったりできる友達があることは大きな支えと喜びにつながる。誰かの手助けがほしい時もある

2000年夏、子育ての社会化を目指し、子育て中のお母さんを中心に子育て中の誰もが気軽に集える場として活動を開始した「ちやいやあらんど」はこの15年間紆余曲折いろいろな時期があったが、人、遊び、情報との出会いの場として“みんなで子育てを楽しもう”と

いう変わることのない思いを大切に活動している。



ハロウィン。お菓子がりに出発！（2015. 10. 31）

わいわい科学クラブ

井上 みち子

8年目の2015年度から「ふしぎワールドⅡ」に突入することを勝手に『宣言』。子どもたち一人ひとりがじっくり実験したり、工作したりしてほしい。仕組みや原理の説明があってもいいけど体験を重視する、いわゆるクラブ活動にしたい…ということで、グループの名前を「理科実験工作教室」から、「わいわい科学クラブ」とした。また、会場はY W C A本館や分室を使用、本館＝午前・午後の2部制なら15人ぐらいまでの子どもたちと、分室＝3部制なら5～10人の子どもたちとなら、少人数のサポーターでも、活動できるのでは、と5月からスタート。

5～9月上半期は、予想の参加者数であったが、下半期の午後や2、3部は2～6人の参加者。それはそれで、保護者や若いサポーターも一緒に作ったり、実験したり。ゆっくりと時間が流れて、出来栄えも良かったようにおもう。

私としては、前日から用意ができ、当

日もゆとりを持って準備や片付けができるのが、Y W C A施設だからこそで有難い。大きな制約がないのも嬉しい。午前や1部の「振り返り」での意見や感想は、午後や2、3部に活かせるし、全日程終了後の「振り返りの会」はつつい長めの親睦交流になってしまうが、これもこれで良いのではないかなあ。

本館は中央小学校区、分室は上筒井小学校区にあり、その他の地域の子どもたちは保護者や小さな兄弟姉妹と共にやって来る。当初は、離れて「参観」されていたが、最近では一緒に活動をする弟妹やサポーター以上の奮闘をされる保護者もある。2月クラブで一区切り。サポーターの声をよく聞いて、大きな変更を行なったが為の軋みは訂正して、新たな年度を迎えたい。



1月クラブ。分室オープンスペースで、「鉄粉カイロ」の温度を上げようと、もみもみする。（2016. 1. 23）



11月クラブ。本館近くの二宮公園で、作った「もけいグライダー」を飛ばす。（2015. 11. 21）

普通の生活を取り戻す

～セカンドハウス・プログラムを応援してください！～

利用者の声

「セカンドハウス・プログラム」は、福島県をはじめその近隣の、放射能被災下に留まらざるを得ない子どもたち、家族、単身の女性に対して提供する「保養プログラム」のひとつです。地域YWCA関係者からいま使用していない住宅の提供を受け、保養場所として利用。現在、横浜、名古屋、神戸と全国に3軒あり、神戸YWCAは神戸セカンドハウスを担当しています。

どのセカンドハウスの利用者からも、何気ない日常生活（買い物や散歩、洗濯など）を送れたことが良かったとの声をいただきます。普段、多くの制約の中で生活をしている利用者にとって、「普通の生活」を取り戻すことは解放の時であり、まさにこれこそ「第二の家＝セカンドハウス」だからこそ提供できる最大の支援なのだと感じます。

しかし震災から5年がたち、セカンドハウス実施のための資金も少なくなってきました。ぜひ引き続き、セカンドハウス・プログラムをご支援ください。ご協力をお待ちしております！

(西本 玲子)

❖ 被災後の生活に慣れるとともに疲れも感じます。終わりの見えない生活。安全ですと言われている中で息子をこっそり保養に出す生活。何を信じたらいいのか。私の選択は正しいのか。こんなモヤモヤした気持ちを保養先でぶつけ自分自身をリフレッシュ、リセットして帰宅する。そんな繰り返しで4年目です。そんな中、苦しいことや悲しいことがたくさんある中で、心に寄り添ってくださる方がたくさんいてくださることにただ感謝です。心強く、一人じゃないと感じられます。 (郡山在住・YYさん)

❖ セカンドハウスではとても楽しい時間をすごしましたが、時々何が現実かわからなくなりました。この草は触っても大丈夫？ここの芝生を裸足で歩かせて大丈夫？そして、ここではそれは考えなくて良かったんだとその度に思い出しました。自分がいかに放射能の恐怖と隣り合わせの生活を続けていて、緊張した生活をしていたのかと思いました。今回は普通の生活ができたことが本当に良かったです。 (福島在住・ESさん)

❖ 毎日毎日、見えない放射能に神経をすりへらして過ごしています。幼稚園でも、学校でも、放射能に気がついている親はモンスターペアレンツ的な扱い…。うんざりです。毎日、放射能だらけの世界で子どもと暮らす気持ち、逃げたいのに自主避難できない気持ち、子どもに自然とのふれあいをさせてあげられない気持ち、保養先で普通の生活がこんなに幸せなのかと泣く気持ち、わかりますか？

(白河市在住・匿名)

❖ 移住を視野にセカンドハウスを利用させて頂きました。福島や東北から離れて、他の地に住む事や風土・イメージを感じとって、何らかの希望につながれると思っています。自分を信じ、「これだ！」と感じる道を生きられる様に、その足がかりとなって寄りそって下さるプログラムには感謝しております。

(仙台市在住・TTさん)

❖ 今回二度目のセカンドハウスでしたが、YWCAの方が自分の親戚の様に思える程、再会が嬉しかったです。「待ってたよ！」とYWCAの皆様に笑顔で言葉が交わせられる。人間であることの息吹や温もりを心から感じました。まだまだ心配はありますが、元気で頑張りたいと思います。そしてまた、皆様の笑顔を楽しみに会いに来たいと思いました。

(西白河在住・YTさん)



神戸セカンドハウスに置かれている「書きちゃってノート」。利用者が滞在中のできごとや想いを書き残しています。

❖ どうして47都道府県の中で福島なのか、そんな事を考えた時もありましたが、遠く離れた場所で起きていた自然災害、人災で苦しんでいる方たちの気持ちが少しはわかるようになりました。身をもって体験するって悪いことだけではないんですね。優しさに触れるってこういうことなんだって、神戸の温かい人たちと接してホッとしました。こんな事が無ければ出会えない出会いですが一期一会だと思っています。これからも福島のこどもたちを理解し支援をお願い致します。

(福島市在住・UMさん)



神戸セカンドハウスに来られたご家族と食事。



ありがとうございました!!

(2015.2.1 ~ 12.31)

地域福祉部へのご寄付など ご協力くださった方々（順不同・敬称略）

*万が一お名前がもれている場合にはご一報いただけましたら幸いです。

片山 恵	島田 恒	羽下 大信	保坂 須美子
亀岡 恒雄	清水 威秀	原 昌義	森 良子
川辺 比呂子	田中 恵子	飛田 みえ子	山下 暁美
千川 信子	田中 洋子	平芳 幸子	吉田 英三
鶴崎 祥子	谷合 公江	藤崎 靖之	李 初容
下村 俊子	中田 作成・洋子		

*みなさまのご支援・ご協力が神戸YWCA地域福祉部の活動を支えています。
神戸YWCA 地域の方々にとって使いやすい場所になるように、これからも様々な整備をしていきたいと願っています。
ぜひこの取り組みにご協力をお願いいたします。

【郵便振替】01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA

【銀行口座】三井住友銀行 三宮支店 普通 1015232 公益財団法人神戸YWCA

お知らせ

◆わいわいランチ

お弁当配達ボランティアを大募集!!

特に運転できる方と車に乗って配達できる方、来てください!

◆夜回り準備会

夜回り活動に参加できる方を大募集しています!



神戸 YWCA の公式フェイスブックページでは、その日の「わいわいランチ」を見ることができます。分室グループ活動の様子もその都度、紹介しています。ぜひ、ごらんください。そして、「いいね！」をよろしく!!

www.facebook.com/kobeywca/



エビフライ、ポテトサラダ、
きんぴらのランチ



火曜デイルーム食事風景



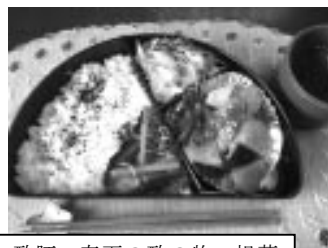
木曜カフェ 喫茶スペース



木曜カフェ、ショップの準備



ランチ配膳風景



酢豚、春雨の酢の物、根菜
の炒め煮のお弁当



YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー
Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語
や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社
会参画を進め、人権や健康や環境が守られ
る平和な世界を実現する国際 NGO です。

発行：

神戸 **YWCA** 地域福祉部

<本館>

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10

tel. 078-231-6201 fax. 078-231-6692

e-mail: office@kobe.ywca.or.jp

www.kobe.ywca.or.jp

<分室>

〒651-0063 神戸市中央区坂口通 5-2-15

tel. & fax. 078-221-5111

e-mail: bunshitsu@kobe.ywca.or.jp

www.kobe.ywca.or.jp